

# 美術科 2年間の取り組み ～with コロナ～

生野支援学校 美術科

## 1 はじめに

昨年度は感染症の大規模な流行により、約3か月にも渡る全国一斉休校という未曾有の事態に直面した。長期にわたる休校期間に加えテレワークの推奨で教員が学校へ出勤する回数自体も減少した。家庭との連絡もなかなか取り辛い中、児童生徒の図工・美術の学びをどうするのか。また、学校再開後も運動会や文化祭などの行事が中止になり、学校生活で感染症拡大予防の配慮が必要になるなど例年と大きく異なる環境の中でどのような授業に取り組むのか。向き合う課題が山のように積み重なった。文字通り教科書がない中、暗中模索の日々だが、本校では知恵を出し合いできる範囲で取り組みを行っている。

今回、本校の2年間で振り返りその取り組みを紹介することで、今後の教育活動に生かしていきたいと考えている。

## 2 休校中の取り組み

### 1) 動画配信

課題を渡す間もなく急な休校が決まり、1日を家庭で過ごすことになった児童生徒に対して、本校では期間限定で動画配信を行った。Webサイト上に限定公開（URLを知っている人のみが閲覧できる）で動画をアップし、本校のホームページにリンクを貼った。動画をアップすると同時に、学校のメーリングリスト「すぐメール」で更新状況を随時発信し、保護者にも広く周知した。学校の桜の様子や、畑の様子、手の洗い方、ジャムの作り方など様々な教科・教員が企画した動画を配信した。美術科からは、家で取り組める工作について動画を制作した。

動画のコンセプトとして、

- ①身近な材料で作ることができる
- ②小学部の児童も取り組むことができる内容（小・中・高すべての児童生徒が対象のため）
- ③短時間（30分以内）で作れる内容

の3つを設定した。教育番組を参考に、オマージュの意味も込めて「いくのかな！」というタイトルの動画を作成した。

動画の制作では、タブレットを使用し動画撮影（図1）をし、情報教育部教員の協力を得て編集、公開を行った。内容はそれぞれキッチンペーパーを使ったあじさいづくり（図2）、紙皿を使った魚づくり（図3）の2本で、困ったことを妖精が工作で解決するという物語仕立ての動画であった。テレワークが推奨される中であったが、複数の撮影日を設定することで撮影を行うことができた。

休校中のみに期間を限定した公開だったが、家庭連絡時に保護者から動画について反応があったり、学校再開後に生徒から「先生、見たで！」と反応があったりと概ね好評であった。TVでコロナのニュースばかりが続く中で、動画の視聴は良い気分転換になったという声もあった。



図1 撮影風景

いくのがな!



図2 あじさいづくり





図3 魚づくり

## 2) 教科書の送付

休校中の家庭学習を支援するために、中学部、高等部の生徒を対象に学校から各家庭へ教科書を送付した。図版が多く視覚的にも楽しめるという理由で、美術の教科書を中学部と高等部の生徒を対象に各家庭へ送付した。

### 3) 「いくのしえんカルタ」の制作

保健室から登校した際に新しい生活様式を伝えるためにカルタの取り札を制作してほしいと依頼があり、美術科で分担して取り札を制作した。

休校中の出勤時間やテレワーク等の時間帯も利用し制作を行い、最終的に美術科から8枚の取り札が集まった。(図4) 学校再開後もカルタは保健室前の掲示板(図5)に週替わりで掲示した。

掲示を見て、新しい取り札の制作に自ら取り組む生徒もおりカルタの枚数は充実してきている。

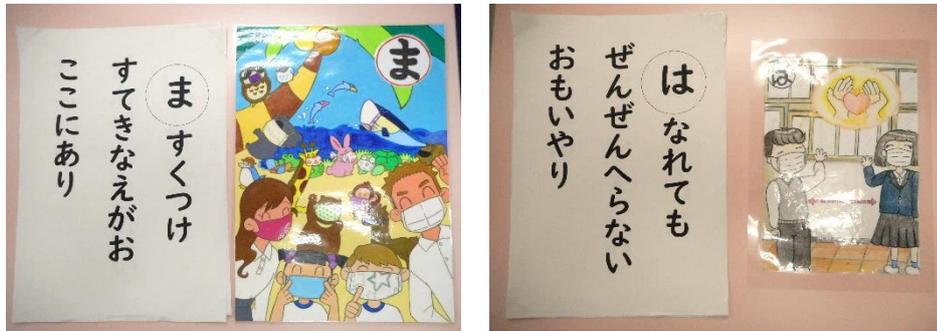


図4 いくのしえんカルタ

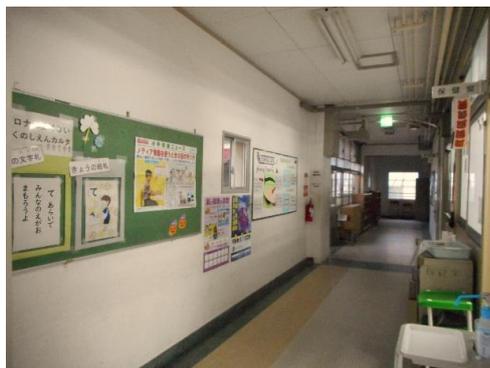


図5 保健室前 掲示の様子

## 3 学校再開後の取り組み

学校再開後は、小学部はホームルーム教室にて、中学部は多目的室、高等部は美術室にて授業を行った。

### 1) 小学部における指導上の留意点

- |          |                                                      |
|----------|------------------------------------------------------|
| 環境面の配慮   | ・常に両方向の窓を開けて授業。<br>・向かい合ったり隣り合ったりしないように座席を配置。        |
| 教材の配慮    | ・道具を一人に一つずつ用意し、同じ道具を共有しない。                           |
| 指導面の配慮   | ・児童は極力座席から移動しない。移動するときは一人数ずつ。<br>・用具は一つずつ教員が児童の机に置く。 |
| 共同制作時の配慮 | ・一人数ずつもしくは間隔をあけて二人で作業。<br>・残りの児童は離れたところから見る。         |
| 消毒時の配慮   | ・授業後すぐに手洗いを行い、サブの教員で教材や机などを消毒。                       |

## 2) 中学部における指導上の配慮

- 環境面の配慮
- ・多目的室入室前に必ず全員手洗いをする。
  - ・教室は密室にならないように完全に扉を締め切らず換気。
  - ・座席は対面を避ける。
- 教材の配慮
- ・個人が座席から極力立ち歩かないで作業できる題材を選ぶ。
- 指導面の配慮
- ・対面での指導を避け、斜め横、離れた前方から行う。
  - ・ソーシャルディスタンスを保ち、近くで指示しない。
- 共同制作時の配慮
- ・対面にならないように制作。
  - ・道具を共有しない。
  - ・個人で制作した作品を教員が繋げて一つの作品に仕上げる。
- 消毒時の配慮
- ・授業後に使用した机や道具を消毒。

## 3) 高等部における指導上の配慮

- 環境面の配慮
- ・従来は生徒用の4人掛け作業台6台を置いて授業を行っていたが、教員準備用の作業台2台も生徒用にして、計8台を生徒用として配置を変更。教員準備用には長机を使用。(図6)
  - ・4人掛けの作業台に4人ずつ座っていた座席を今年度は2～3名で座り向かい合わないよう工夫。
  - ・休憩時間は窓を全開にして空気を入れ替えこまめに換気。
  - ・寒さに弱い生徒には防寒具の使用を許可。
  - ・歩き回らなくて良いようにゴミ箱をたくさん配置。石鹸、ハンドソープ等を多数用意し配置。
- 教材の配慮
- ・個人でできる題材を選び、基本的には机での作業で制作。
  - ・歩き回る回数を減らすため、水道代わりに各机に水を入れたバケツを置きパレットを洗えるようにした。
  - ・できるだけ共用するのを避けるため人数分の道具を用意。
- 指導面の配慮
- ・大きな声を出さない。マスクの着用など何度も言葉かけ。
  - ・材料を取りに行くなど必要な時以外は立ち歩くことのないように言葉かけ。
  - ・授業の最初と終わりに手洗いを徹底。
  - ・道具の貸し借りは行わないように言葉かけ。
- 共同制作時の配慮
- ・密になるのを避けるため少人数ごとに区切って共同で塗らせる。パーツを作らせて集めて貼る。
  - ・場所が狭く密になるため、廊下のスペースも作業に活用。
- 消毒時の配慮
- ・授業後、必ず机、いす、色鉛筆、絵の具、水道蛇口などを消毒。



図6 高等部美術室

#### 4 運動会の取り組み

令和2年度は運動会が中止となったが、令和3年度は例年の実施形態を変更して行った。美術科では運動会に向けて、日頃の授業を通して装飾作品を制作した。

##### 1) 横断幕

小学部から高等部まで、学年ごとに運動会当日に飾る横断幕を制作した。大きさは模造紙4枚分あり、従来であれば貼り合わせた大きな作品を囲み協力して共同制作を行っていたが、感染症予防のため、模造紙を切り離した状態で絵の具を塗ったり（図7）、別の紙に文字や絵を描いたり（図8）して、最後に貼り合わせる方法で少人数で制作ができる環境を整えて制作を行った。



図7 制作風景



図8 制作風景

横断幕には学年種目に関連していたり、学年のスローガンを記載したりと個性豊かな作品が揃った。完成した横断幕は運動場を囲うように体育館横や校舎に展示し当日の雰囲気盛りあげた。（図9）



図9 横断幕展示風景

##### 2) 万国旗

運動場に面した校舎の窓に不織布を三角形に切りそろえ、紐で繋げて万国旗を制作し、校舎を飾りつけた。（図10、11）小学部から高等部まで一人一枚制作した。（図12）旗に応援メッセージや絵・模様それぞれのアイデアが光る作品がずらりと並び、当日は運動場からの光景がとても華やかになった。児童生徒自身で窓への展示作業に取り組んだ学年もあり、自分の旗の場所を確認して嬉しそうな様子も見られた。



図10 運動場から見た校舎の様子



図 11 校舎から見た運動場



図 12 万国旗 制作の様子

運動会は、当初有観客で学部ごとに時間帯を分けて実施する予定だったが、緊急事態宣言の延長を受け無観客での実施となった。児童生徒が日頃の授業の中で制作・展示した横断幕や装飾を保護者の方々に直接見てもらえなかったのは残念だったが、児童生徒の記憶には残っていることと思われる。

## 5 文化祭の取り組み

令和2年度は文化祭を中止したが、令和3年度は例年舞台発表を行ってきた形を変更し、「生野シネマ」として事前に撮影したビデオを保護者に向けて上映する形で実施した。

美術科では、日頃の授業で映像制作時に使用する背景や小道具（図13、14、15、16）を制作した。演目を紹介するポスター等の制作を行った学年もあった。

運動会の横断幕制作同様、共同制作時には感染症対策を講じながら行った。



図 13 小道具を廊下に展示する様子



図 14 文化祭映像に使用したポスター



図 15 映像の背景画



図 16 文化祭の入り口看板

## 6 玄関装飾

例年、正面玄関の掲示板上に約1m×4mの作品を月替わりで担当を決め、制作・展示している。この取り組みは感染症による休校期間があった令和2年度も継続した。休校の影響で、春を担当する学部・学年は制作が間に合わず展示が難しい場合もあったが、夏以降は毎月共同制作作品を展示し、季節に合わせて玄関を華やかに飾り付けた。(図 17、18)



図 17 令和2年度の展示作品 (抜粋)



図 18  
令和 3 年度の展示作品と展示の様子 (抜粋)

## 7 学習発表会、作品展

前述のとおり、運動会では横断幕や運動場の装飾、文化祭では劇や発表に使用する背景画や書割、小道具などを制作し、演技とともに作品も発表してきたが、令和 2 年度は行事が中止となったためその機会がなくなることになった。作品発表の場が減ってしまった分、各学年で教室の廊下や掲示板等を利用し、随時、制作した作品の展示を行った。(図 19、20)

令和 2 年度は運動会や文化祭が中止になったことに代わり、例年 2 月に行ってきた作品展を「学習発表会」と名称を改め、授業で制作した作品を展示するとともに活動中の写真を展示し、日ごろの学習の成果を披露した。従来であれば生徒自身が作品展示作業に関わっていたが、感染症対策のため展示作業は教員のみで行った。作品制作、展示、鑑賞の一連の流れを経験できる機会が失われたことは残念だったが、学習発表会の鑑賞日には自分の作品が展示されているのを見つけて嬉しそうに報告する生徒や友だちの作品を見つけて素直な感想を口にする生徒もおり達成感を感じている様子であった。

令和 3 年度は運動会・生野シネマが行事として行われ、作品展も従来通り実施されることとなった。現在、作品展に向けて各学年で制作・準備を進めている。



図 19 廊下に展示した作品



図 20 廊下に展示した作品

## 8 入学式・卒業式

入学式、卒業式に合わせて、美術の授業で校内装飾を制作した。制作した装飾作品は玄関から卒業式・入学式が行われる体育館までの廊下や壁面に飾りつけた。展示作業も授業の中で行い、生徒たち自身で取り組んだ学年もあった。(図 21)





図 21 玄関に展示した装飾作品

## 9 まとめ

休校、それに伴う授業時間の減少、行事の中止、感染症対策のため活動の制限が通達されるなど例年と異なる状況の中で本校がこの2年間でどのような取り組みを行ったかを紹介した。しかし、児童生徒数に対して部屋が狭く密が生まれやすい空間になっているという環境面での問題、多人数での共同制作をどうするか、道具の数に限りがある中でどのような題材を選べばリスクを避けることができるのかという制作に関する問題など、まだまだ課題は山積している。

今回、本校の取り組みを紹介することで改めて2年間で振り返ることができた。作品制作の楽しさ、それを展示し鑑賞するおもしろさを味わえるよう今後も工夫を重ねながら、美術を楽しむ心、豊かな感受性を育むことができるような教育活動を行っていきたいと考えている。